

# 地域医療学

## 1 構 成 員

	平成23年3月31日現在
教授	0人
准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
助教(うち病院籍)	0人 (0人)
助手(うち病院籍)	0人 (0人)
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	2人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	2人
合計	4人

## 2 教員の異動状況

山岡 泰治(特任教授) (H19.10.1～H20.7.31 特任准教授；H20.8.1～現職)

原岡 智子(特任助教) (H21.4.1～現職)

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成22年度
(1)原著論文数(うち邦文のもの)	1編 (1編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2)論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3)総説数(うち邦文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4)著書数(うち邦文のもの)	1編 (1編)
(5)症例報告数(うち邦文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.00

### (1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 仲井宏充, 原岡智子, 吉村博文: 危険源推定支援ツール「マトリックス」の作成 原因不

明の健康被害発生に対応した原因推定支援ツール作成の試み, 保健医療科学 59(4): 380-389, 2010.

インパクトファクターの小計 [ 0.00 ]

(4) 著 書

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

1. 柳川洋, 尾島俊之, 北村邦夫, 中村好一: 保健指導ノート 2010 公衆衛生の現状, 社団法人日本家族計画協会, (6-1)-(6-7), 2010.

4 特許等の出願状況

	平成22年度
特許取得数(出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成22年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 ( 0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 ( 0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 ( 0万円)
(4) 財団助成金	0件 ( 0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 ( 0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件 ( 0万円)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成22年度
(1)国際共同研究	0件
(2)国内共同研究	0件
(3)学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成22年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 中東遠および志太榛原の両医療圏の病院運営の安定化に向けた研究

中東遠医療圏および志太榛原医療圏は、静岡県内でも特に公立病院の勤務医不足が深刻化している地域である。研究対象地域の公立病院を対象に文献および訪問調査に基づく分析を行い、経営の課題および病院の安定的な運営を図る上で障害となっている要因を明らかにした。こうした経営に係る分析の成果を還元するため、静岡県病院協会において講演を行った（平成22年11月10日、静岡県経済産業会館）

また、研究成果のアウトリーチに注力し、こうした地域医療の中核を担う公立病院が将来にわたって医療ニーズに確実に応えるためには経営改革が急務である現状を踏まえ、市立御前崎総合病院および公立森町病院のそれぞれの経営改革委員会に委員として参画し、専門的見地から病院の実態に即した助言・提言を行った。併せて、病院収支の改善を進めるため、磐田市立総合病院および公立森町病院の新施設建設に係るコストダウンを検討する委員会に委員として参画し、具体的なコストダウン対策について検討した。

さらに、地域医療を共に支える活動を市民レベルで展開するため、市民フォーラム（平成22年7月24日、磐田市：平成22年11月9日、島田市：平成23年3月12日、掛川市）を共催して啓発活動を行った。

（研究担当者：山岡 泰治）

### 2. 地域健康安全に貢献するボランティアの養成・確保の方策に関する研究

厚生労働科学研究である地域健康安全に貢献する災害ボランティアの養成・確保の方策に関する研究に研究協力者として参画した。災害ボランティアの活動や健康問題等について被災地での聞き取り調査を行い、分析を行った。さらに過去の研究も踏まえて、平常時から災害時における保健医療職による災害ボランティアの健康管理のあり方を検討し、「災害ボランティアの健康管理に関する指針」を作成した。

（研究担当者：原岡 智子）

### 3. 緊急被ばく医療に関する人材育成

突発的な災害の発生に対して限られた人的資源や医療設備・資機材を使って適切な医療

サービスを提供するためには、有機的に連携できる人および組織の整備が欠かせない。さらに、こうした連携体制を構築するにあたっては、地域の特性を踏まえて現有資源を活かすことが大切である。

こうした観点に立ちながら、緊急被ばく医療を対象として、中東遠医療圏および志太榛原医療圏における実効的な連携体制の確立と即戦力となる専門家育成を目指した研究を行った。

平成22年度は初期被ばく医療機関の連携体制の整備に不可欠な対応マニュアル(標準版)を策定し、この標準版に準拠した被ばく訓練を主催した(平成23年2月22日、菊川市立総合病院)。この訓練には静岡県内の4つの初期被ばく医療機関および近隣の消防本部からの参加を得て、対応の標準化、連携体制の確認を実施した。

(研究担当者：山岡 泰治)

#### 14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

災害ボランティアの保健医療職の専門職による災害ボランティアの健康管理に関して研究し指針を取りまとめた先行事例はない。今後、継続的に研究を進めるとともに本指針の普及を図ることによって、災害ボランティアの健康と安全安心な活動を確保することが可能になるものと期待できる。

また、病院運営の安定化に関する研究は、地域の知的拠点であるとともに地域医療の中核的・指導的立場にある本学が地域の求める専門人材育成や安全・安心な地域形成に貢献することに繋がるものである。

#### 15 新聞、雑誌等による報道

- |                           |      |             |
|---------------------------|------|-------------|
| 1. 「医療の職場環境向上を 意識調査の結果報告」 | 静岡新聞 | 平成22年6月2日   |
| 2. 「地域医療テーマ 磐田で講演会」       | 静岡新聞 | 平成22年7月25日  |
| 3. 「島田でシンポ 地域医療の課題を探る」    | 静岡新聞 | 平成22年11月10日 |